

第3回 生駒山 枚岡公園 探鳥会 2024年5月11日(土) 担当: 納家 仁、枚岡公園定例探鳥会リーダー  
9時10分 近鉄奈良線「枚岡」駅下車 枚岡神社鳥居前 集合 15時00分 枚岡神社鳥居前 解散

生駒山は大阪支部発足当時からの探鳥地として、今も変わらず大阪支部にとって大切な場所です。特に慈光寺では、森田淳一初代支部長によるアオバヅクの観察記録が当時の野鳥誌に掲載されています。森田支部長がそして榎本佳樹が何度も訪れた生駒山の初夏の野鳥を楽しみましょう。

以下は、中西悟堂が1937(昭和12)年7月18日に岩湧山の探鳥会に参加した夜に生駒山の守山白雲幹事の別荘に泊まって、生駒山慈光寺での探鳥の様子を「野鳥」誌(1937年8月号)に書かれたものです

### 岩湧山探鳥の会

七月十八日の、大毎野鳥の会の岩湧山探鳥会では、事業部副部長山口勝一氏が大わらわの活動だった。さすがに新聞社のすることである。二百名という未曾有の参加者にも拘らず、各組指導者の色別けの腕章の下に、一糸乱れぬ統制がとれて、案じた程の苦労もなく済んだが、この間には野鳥の会阪神支部幹事の守山白雲氏、支部長森田博士等の隠れた御苦労も少くなかった。榎本佳樹氏が、老齢をいといわず、上衣を汗でびしょ濡れにして指導に当って居られた。

岩湧寺のことは又ゆっくり書こうと思うが、巨樹森々としてホトトギスやオホルリやアヲゲラに恵まれた一山である。木菟引(づくびき)の鳥寄せに寄せられたセンダイムシクヒやヒガラの群は、吾々の頭上二尺乃至二メートルを掠めて、きりきり舞いをしていた。オホルリは昼間ぢゆう、ホイヒイー、ピピ、ピールイを囀っていた。大阪府下ではすぐれた見学地の一つだそうである。

### 生駒山と髪切山慈光寺

その晩、私は生駒山上の守山氏の別荘に寝た。ここは大阪府と奈良県とを分ける見下ろすところで、夏蒲団を二枚かけて寝ても寒い位。一 明くれば鈴鹿山脈の横雲を破って、団々たる日の出だった。見渡せば右、金剛、葛城、信貴は指呼の間に。正面は眼の下の畝傍山、香具山、耳成山の三山、さては多武峯などのうしろに、一七八〇mの山上ヶ岳から伯母ヶ峯、白髭、大台ヶ原のひとつらなりの凸起々々がならび立って、朝空に爽やかなキイを鳴らすような眺望。ずっと左には奈良の嫩草山が、ひときは小ぢんまりと、緑の食卓のように見えた。

守山氏と私とは早暁の露を踏んで、反対側の山腹にある、ホトトギス放送の慈光寺へ下った。岩湧山に「野鳥愛護」の大看板を建てた守山氏は慈光寺境内にも建てると言って、同じような大看板をかかえていた。古義真言宗慈光寺は役行者の開基にかかり、行者が三十二歳で得度の地なので髪切山の山号がある。行者を象徴する大きな下駄と錫杖とが開山堂の前にあったが、下駄は十二貫、錫杖は五十三貫という大きなものだ。そのそばにはアヲバヅクが去年営巣したという樹があったが、その樹の樹洞が地べたに接しているのが、アヲバヅクの巣としては風変りに思えた。

任職榎尾師に招ぜられて朝の食事のもてなしを受けた部屋からは大阪城や淡路島が見えるそうだが、この朝は模糊として、間近の町の中に、近く取払われるという「人のみち」教団の建物の三角の屋根が光って見えた。ここはひとりホトトギスばかりでなく、オホルリ、コゲラ、ヒヨドリ、メジロ、コカワラヒワ、ホホジロ、ウグヒス、サシバなどをこの朝も聴いたり見たりしたが脚気大師で有名なこの寺に、もう一つホトトギスが添加されたことはよいと思いながら、寺から頂いた御供物とシャモジをさげて、私たちは生駒山頂にもどった。

**慈光寺の野鳥塚** 昭和51年(1976)に東大阪野鳥の会によって建てられたものです。建立の経緯等の詳しい事は分かりませんが、かつて生駒山に霞網による「鳥屋場」があって、多くの野鳥が捕獲されていたことと関係があるのではないかと推察されます。日本野鳥の会大阪支部が主催した鳥屋場の見学会の様子は配布資料をご覧ください。



同じ生駒山にある宝山寺には、以下のような石碑があります。



生駒の聖天さん 宝山寺の石碑 山本古瓢の句

鳥雲に 享くるのみなる 手を浄む 古瓢

「句意」

日本の冬が終わり、雲間に消えて北国に帰って行く鳥の群を見ていると、大自然の中に融け込み、清純無垢となる自分を感じる。思えば自分は天地・神仏や人々のおかげをこうむるのみである。礼拝すべく、手を浄め、謙虚な反省と強い感謝の念を覚えたのである。